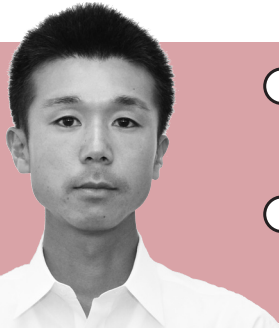


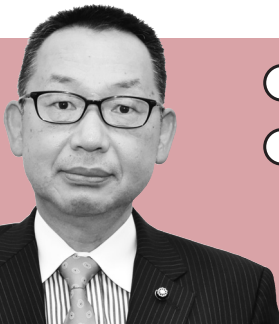
中山光平議員
市民の会



○ 勝山市役所職員数から見る 各職員の業務負担の増減について ○ 職員の心と体のケアについて

- 問** 勝山市の運営に欠かせない市役所職員であるが、その重要さにも関わらず過去十年の正職員数を見ると毎年数を減らし続けている。これはどのような理由か。
- 答** 人口減少や産業構造の変化等に合わせた正職員数の適正化を図ることが必要と考える。
- この削減は、これまで市が直接行っていた事業に、民間委託や指定管理者の導入をしたことによるものである。また、市が直接行うべき業務については、住民サービスの低下とならないよう適正な人員配置とすべく計画的に削減を行っている。
- 今後とも、住民ニーズを的確に捉え、真に必要な且つより良い住民サービスを提供し、最小の経費で最大の効果を得られるよう取り組む。
- 問** 人口規模等の比較も重要だが、そもそも職務を遂行する為に職員が必要であると考えます。
- 職員を減らした中で滞りなく市を運営するためには、同じ勤務時間で今まで以上に働く必要がある。現在の状況では、職員の中に心身のダメージを訴える者が居ても無理はない。職員に対する心身のケアはどの様に行われているのか。
- 答** 職員に対する身体的・精神的ケアは、年1回の健康診断または人間ドックの受診、検診結果に基づく特定保健指導や、ストレッチ、メンタルヘルス講座の実施等を行っている。また、専門家や産業医による個別相談も行っている。
- 今後とも様々な面から職員の身体面、精神面での支援に努める。

下牧二郎議員
新風会・公明



○ 中学校再編について ○ 空家の利活用について

その他の質問

- ・いじめ早期把握について
- ・技術革新の利用について
- ・恐竜のまちづくりについて

- 問** 検討委員会の答申を受けて中学校を1校にして勝山高校に併設・近接する形の中高連携を進めているが、仮に、勝山高校併設が実現した場合、公立中高一貫教育を目指すのか伺いたい。
- 答** 今想定しているのは、県立高志中・高校のような完全中高一貫校ではなく、中学生は、あくまでもそれぞれ志望する進路を選択する中で、希望する生徒が入学試験により勝山高校へ進学するというシステムである。
- ただ、中学校と高校が至近距離に立地することにより、教育面において中・高の密接な接続が可能になり、質の高い教育や部活動の充実など、中学校のみならず勝山高校の活性化が期待されることから、中高併設等による連携を進めたいと考えている。
- 問** 市内には約540件の空家がある。この空家をリフォームし高速の光回線を引いて、福井県立大学が新設する『恐竜学部』の学生専用のシェアハウスをとりあえず2軒作ってはどうか。シェアハウスが2軒あると少なくとも10名前後の学生が市内に住むことになり市の活性化にもつながると思うがシェアハウス建設について市の見解を伺いたい。
- 答** 子育て中の主婦や学生の移住、そして新規創業者など、新たなニーズが見込めることも想定されるので、商業施設出店促進事業を活用した整備や行政等が取得しての整備など、様々な視点により研究したい。